

# 自 己 評 価 票

階ユニット

## 【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

## 【自己評価の実施方法】

- 運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください
- その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
- 優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

### 地域密着型サービスの自己評価項目の構成

	項目数
<b>I 理念に基づく運営</b>	22
1 理念の共有	3
2 地域との支えあい	3
3 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4 理念を実践するための体制	7
5 人材の育成と支援	4
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	10
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	17
1 一人ひとりの把握	3
2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	38
1 その人らしい暮らしの支援	30
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V サービスの成果に関する項目</b>	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

記入年月日	平成 20 年 4 月 10 日
法 人 名	有限会社うらら
代表者名	松谷由美子
事業所番号	2 7 7 2 4 0 2 7 4 5
サービスの種類	認知症対応型共同生活介護
事業所の名称	有限会社うらら
ユニット名	うららの家
所在地	大阪府枚方市村野東町10-35
記入者名	松谷由美子
電話番号	0 7 2 - 8 0 5 - 5 6 6 0

# 自己評価票

(  部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	<input type="checkbox"/> 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>			
<b>1 理念と共有</b>			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症になっても障害があっても住み慣れた地域で暮らしたいという希望をかなえるホームです」 「1人ひとり個性豊かに心豊かに」を、うららの家の理念としている	
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームが一人一人の利用者の家庭であるということを絶えず念頭におき、敬意と愛情を持って接するようにしている	
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所の面接時に、ホームとして大事にしていることを説明し、安心してもらえるようにしている。集会室に理念を掲示してある。「うららの家便り」に理念を分かり易く掲げ地域の方々に訴えていく	利用者の穏やかな表情そのものが何よりの地域へのアピールである。明るく老いるためのノウハウを様々な、角度から訴えていくための知恵を力を出し合う職員集団を形成したい
<b>2 地域との支えあい</b>			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な、つきあいができるように努めている	開設時の説明会で、グループホームは地域の方々の理解と協力で生き続ける生活の場であることを訴えた。利用者の散歩時や、職員の出勤・退勤時に、親しく挨拶を交わす。	「うららの家便り」を定期的に配布する。庭に咲いた花や、庭木に実った枇杷の実を届けてくれる方がある。折り紙で作った花を、近所の方がプレゼントしてくださることもあった。今後ともこんな関係でありたい
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りの日に、ホームの夏祭りを行い、地域の人々を招待した。利用者も職員も踊りの輪に加わった。地域の老人会に、ホームのメンバーも参加し交流を持った。	夏祭りの、出店、子供たちへのゲーム券配布など今後も続け、より盛大に楽しめるように、盛り上げていく。 老人会参加時に、行事の写真を持参し地域の高齢者の参加を呼びかける
6	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢の職員も元気で働いている姿を見てもらうことが地域の高齢者を元気にすることと自覚し、生き生きと活動する。「うららの家便り」に元気老人であるためのワンポイントアドバイスを掲載する	クリスマス会などの行事にも、地域の高齢者の参加を呼びかける。定例の職員会議で地域交流の深まりについて職員の話し合いを深め、工夫と知恵とパワーを出し合っていく。
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の実践の中からよりよい介護への生きた理論を見つけ出すためにも自己評価・外部評価は欠かせないことを確認しあって、反省すべき点は反省し改善に取り組んでいる。	マンネリにならないように、自己評価をし外部評価も真摯に受止め、て努力し、自信につなげるようにしたい
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族との日程調整などが困難で取り組みを実行できていない	<input type="checkbox"/> 第1回は5月 報告・話し合いの内容をサービス向上につなげるべく努力していきたい
9	○ 市町村との連携 事業所は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる	シルバー人材センターの研修を受け入れて、地域の高齢者の活性化に寄与している。地域の中学生の職業体験を受け入れ、世代間交流に役立っている。	中学生の楽器演奏を、利用者も喜んだクス球、風船人形などの中学生の手づくりのプレゼントを大切に飾ってある
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している	一般知識としては知っているが詳細についての理解は出来ない	<input type="checkbox"/> 地域の中で生きていくホームであるために地域権利擁護事業や成年後見制度についての資料を集め学習していきたい。分かりやすいレジメを作り学習する

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		今後も本音で話し合う職員集団であることを大切に、互いを尊重しあう関係を築き暖かい雰囲気ของกลุ่มホームであり続けたいと願っている。それが利用者の幸せにつながっていくようにしている。
<b>4 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		体調不良を訴えるときは、受診につき添い安心できるようにしている。イライラや不安の感情をも出すことができるようにし、受容的態度で接するようにしている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている		家族の訪問時に、うららの家便りを見てもらう 行事などの写真を多数掲示し、家族に見てもらっている
15	○運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている		職員の健康状態・家庭状況に対する理解の上で温かい対応をしている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている		
<b>5 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		○ 認知症についての学習会も行ったが新しい職員もいるので再度行う
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		グループホーム交流会に参加し、他ホームの取り組みを聞くことが出来た。

(   部分は外部評価との共通項目)

↑   取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる		学習し、個々が力をつけることが何よりのストレス解消であるということに気づきあっていけるようになって欲しいと願っている
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと、支援

### 1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	まづ、訴えを傾聴し、しっかりと受容することによって信頼関係を築く。ゆっくり時間をかけて、温かい態度で聴くことを大切にしている	認知症の人は自分の状態が分からずわけの分からないもどかしさの中にいるということを理解し、分かりましたよと受止め安心感を持ってもらうようにする
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族がこれまで行ってきた介護に対する敬意と労りの気持ちを忘れないようにして、話を聴きながら、生活暦の把握もしっかりと行う	
25	○ 初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「～が困るんです」と言う家族の訴えはネガティブになりやすいが、その中から何が出来るか、前向きな取り組みを見極め、幅広いアドバイスをする。	主訴の把握と分析
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら、工夫している	家族共々の見学や体験入所をしてもらう	新しい環境に入るといふことへの不安を十分理解して接する。高齢者は特に環境の変化に適応しにくいものだと心しておく。

### 2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長い人生を歩んできた人への敬意を忘れず、節度ある親しみの感情を持って接する。高齢の方の話から学ぶという姿勢を続ける。	丁寧語で話す 仕事をさせていただいているという感謝の気持ちを忘れない。
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	現状を語り合うことによって家族から介護のヒントをもらうことがある。	家族にとって、大切な親であり、妻であり、夫であるということを忘れない
29	○ 本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームへ入所して適度の距離を保つことにより、家族が本来の愛情をもちつづけることが出来ているという、仕事に対する誇りを持ち、利用者と家族との交流を温かく支援する。	外泊時の連絡事項を丁寧に 体調 服薬 生活状況 現在の食事形態
30	○ 馴染みの人や場との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問者を温かく迎える 電話連絡・文通などのお手伝いをする	

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	最高齢の方がしっかりいていしかも温かく周囲の方に接してくれるのでホーム全体の雰囲気が大変良い。感謝の気持ちで側面から応援するようにしている	誕生会を盛大に行い、互いの健康と長寿を喜び合っている。今後ともより盛り上がりのあるものになりたい
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のお世話を心をこめておこなうことが、継続的関係につながるものと思っている。もちろん、契約終了後にも、助力は惜しまない	

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1 一人ひとりの把握

33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	皆の中におりたい方、居室で一人の時間を楽しみたい方など、個性に合わせ対応している。外出の希望があった場合はホームの車で同行している	読書の好きな方には本を借りてきてあげている
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の資料や、家族との話の中からまた、ご本人の言葉の中から、生活歴を把握し、それが現在の生活にどう影響しているか、考え、介護に生かすようにしている。	生活歴を理解し、より共感的に対応できるように、職員が利用者との語らいの中から感じ取ったことを、お互いに伝え合っている
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者さんをよく見ていくことで、総合的な把握が出来るようにする。身体的、精神的社会的面からよく観察する。できないと評価するのではなく持っている力に目を向ける。	ストレングスの把握とそれを支える工夫 現存機能の活用 生活の中でのリハビリ

#### 2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者が話し合っって介護計画をつくるように、そして、一致した見解で、介護の方向性を決めていく	○ 介護計画についての話し合い
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状の把握はよく出来ているがそれを系統的に整理して、職員全体の財産とすることを今後の課題としたい	
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は簡潔で要を得ており、分かり易くいたずらに記録に時間をとって肝心のお世話がなござりになるということがないのは、大きな長所である	理屈より愛情

#### 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問介護の利用者さんだった方が自宅での生活が困難になって入居されているケースがある	
----	--	---	--

#### 4 本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している	相談職の方が来訪したとき一緒に回転寿司へ行って利用者さんとワイワイ楽しく昼食！！ ボランティアさんが三味線を弾きに来て利用者さんは陽気に踊った	読書好きの方と、図書館へ同行する手品のボランティアも呼べたらいい
----	--	--	----------------------------------

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	今後は広く情報を収集し、各方面の指導を受け、利用者さんのより良い生活に資して生きたい
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している	○	地域の認知症専門医の把握
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		夜間の巡回など安全確認の一層の徹底を図っていく  重度の方の家族さんは、協力的であり信頼して介護をゆだねて下さっている
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている		病状の変化をよく見極め、適切な時期に受診するようにする
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		入居者が入院以外で他の居所へ移ったということは今のところ無い  情報交換を大切にして、住み替えのダメージを極力小さくしていくことに努める。

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
-----	------------------------------	--------	-------------------------------

**IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

**1 その人らしい暮らしの支援**

**(1) 一人ひとりの尊重**

50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみを込めるつもりで言う言葉が馴れ慣れしすぎにつながらないように気を付けていかなければならない。個人記録は、しっかりファイルし保存している	丁寧語を使って対応し、プライドを損なう言葉遣いにならないようにする。
51	○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	不機嫌になったり、怒ったりという形で思いを出す人もいるが、よく受止めて傾聴している。自己選択できる場面を出来るだけ多くし納得して行動できるようにしている	不機嫌さは認知症に伴う鬱状態であったり自らの状態に対する不本意さであることもあるので、あまりに萎縮した対応にならないせず、おおらかに受止め、温かく撰していく。しかし、対応に対する自己チェックは、しっかりやっていく。
52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調によっては、居室で横になって過ごしたり、居室でテレビを見たり、読書したりと、それぞれのペースを大事にしている。買い物に行きたい、宝くじを買いに行きたいと要望をでてこられるが出来るだけ受止め同行している。	体操・レクリエーション・散歩などにも継続的に取り組み、無理なく参加できるようにしていくが、体調や気分に応じて流動的に対応する

**(2) その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援**

53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地味な服はイヤと言う方のため、明るい色調の服を着てもらっている。家族と美容院へ行く方、職員と床屋へ行く方、職員にカットしてもらおう方などそれぞれの希望に添っている。	髭剃り・整髪などで生活のメリハリをつけるようにしている。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食時が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	豆の皮むき、もやしのシッポ取り、など全員で行っている。食器の片づけを手伝ってもらっている	安全面のこともあり、包丁を使った調理への参加までは出来ていない。たこ焼きパーティー、鍋物など喜んでもらっている。今後も続けたい
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	タバコはエレベーター前のコーナードで吸ってもらっている。コーナードには扇風機ヒーターを備えてゆっくり楽しめるようにしている。職員が作った冷コーヒーを冷蔵庫に入れている人もいる	朝のコーヒー・紅茶・食後のコーヒーなど希望に添っている 夜間譫妄状態のときも、温かい飲み物を出して落ち着いてもらうこともある
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、気持ちよく排泄できるように支援している	排泄間隔の把握によってトイレ誘導したり利用者さんの訴えや、表情態度によって尿意を察知してトイレ誘導したりしている。	陰部洗浄をしっかり行っている
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	完全に希望に添った時間に入浴すると言うことは出来ていないが、入浴チェックをしっかりして、清潔保持に努めている	
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	午睡の時間帯を設けているが、適時横になって休憩される方もある。逆に傾眠傾向の方もあり食事中もうとうとされる時もあり声かけしている	夜中にトイレに起き、すぐには眠れず夜勤者にあれこれ話しかける人、眠ったと思えばすぐ起きてきて、あれこれ訴える人早朝に起き出だしてくる人などしんどくもユーモラスな姿がある

**(3) その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援**

59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	トランプをリードできる人、塗り絵に熱中する人、カラオケで鍛えたナツメロを歌う人、魚の名前を列挙する人など個々の生活歴・現存能力に合わせて生活の中の楽しみを見つけてもらっている	カラオケセット・ビデオの活用も継続していく 室内装飾も利用者さんと一緒に作っていく
----	--	---	--

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	認知症の状態によりお金を持っている人と持っていない人がある。買い物に同行したり、宝くじを買いに行くのに同行したりして、お金を使う楽しさを味わってもらうようしている	宝くじをたくさん買って「今度こそ当たるはずや」と性懲りの無い人もいる
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行車や杖を使用して出掛けたり、家族さんや職員と受診したり、買い物に行ったりしている。ホーム前のスペースにビニールシートの屋根をつけて、日向ぼっこしたりビニールプールに入ったりしている	外出時の安全確保をしっかりと行う
62	○ 普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	花見(村野小学校跡地) コスモス摘み(穂谷コスモス園) 手作りの花見弁当が美味しかったと好評 家族との出かけ外食も温かく送り出している。	造幣局の通り抜けを懐かしむ方もいる。家族さんと行かせてあげたいものである。ホームの中ではある程度歩いていても外へ出ると固まってしまう人は車椅子使用
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している	携帯電話で娘さんといつも話している方もある。 「うららの家便り」に家族へのお便りコーナーを設ける。	
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族・友人の訪問時には温かく迎え日ごろの様子を伝え、居室でゆっくり過ごしてもらっている。	

(4) 安心と安全を支える支援

65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる行為についての学習をし、接遇時の心構えについて確認しあった。	
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をかけることはない。入口の鍵も、日中はかけない。利用者さんの行動はよく見守って、安全確保をし、なるべく自由に行動できるようにしている	
67	○ 利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している	居室に入るときは声かけしている。夜間は眠りをさまたげないようにして、睡眠状態・体調を確認している。	夜間内側から鍵をかけてしまって入室巡回を嫌がる方もいる。外から寝息を聞くようにしている。
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認識の状態に合わせて居室の持ち物を調整している。特に危険なハサミ・針など以外は自由に行っている	「～が無くなった」と探しまわる人に付き合っ、一緒に探したりしながら。落ち着くのを待つ。
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	整理整頓に努め、安全に移動できるようにする。一包化された薬の名前・服薬時間をしっかりと確認する。食べ物の形状を個々の嚥下の状態に合わせる。外出時の安全に留意し無理をしない。	「ヒヤリ・ハット記録」を書き危険箇所・危険行為を確認しあって、再発を防いでいる。
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている	急変を見逃さない観察力をもつように、そして機敏に行動を起こし、自己判断を避け、報告、連絡、相談を徹底する。 救急要請の手順の周知徹底をはかる。	管理者の自宅がすぐ近くなので夜間の急変時にも直ちに駆けつけることが出来る

(   部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	避難訓練計画作成 訓練実施 安全確保のため職員が利用者さん役をして、訓練を行う
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	○	医療との連携・自己学習

**(5) その人らしい暮らしを続けるための、健康面の支援**

73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		特に認知症の人は自分の状態を正しく伝えられないため、変化を見落とされることがある。高齢者は予備力が低下しているため、急変することがあるということを意識して介護に当たる
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている		薬はしっかり飲み込んだことを確認する。精神・神経に作用する薬を飲んでいる人は、特にふらつき・転倒に注意する。
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		毎朝のラジオ体操・リハビリ体操の継続散歩の取り組み 排便間隔のチェックの徹底 便状の観察
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている		特に胃ろうの方は、唾液による自己浄化作用が低下しているので、頻回に口腔ケアを行う。
77	○ 栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		女性はお茶を飲まないとお肌になりやすいと言葉かけすると、よく飲んでくれる
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)		利用者・職員のインフルエンザワクチン摂取はこれからも継続していく
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		

**2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり**

**(1) 居心地のよい環境づくり**

80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		玄関の清掃をする。プランターに花や観葉植物を植える。 業者による廃棄物の収集を毎日続け周辺に迷惑を掛けない様にしている。
----	---	--	---

(  部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	<input type="checkbox"/> 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る 適時換気する 消臭剤の適時使用 毎日掃除機掛掛け・拭き掃除をする 季節感を取り込んだ室内装飾 (折り紙 貼り絵など)	<input type="checkbox"/> 整理整頓をしっかりとる 利用者さんの陰洗をしっかりと行っている ので不快なおいはない
82	<input type="checkbox"/> 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員が集うテーブルと、三人がけのソファを置いている。廊下には1人かけの椅子と、ヒーターを置いて、一人でゆっくり、喫煙したり、コーヒーを飲んだり出来るようにしてある	1階のフロアでリクリエーションしたり、催しをしたりもしている。
83	<input type="checkbox"/> 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭から持ち込んだ馴染みの家具を置いている 亡くなった配偶者の写真を飾っている 人ホームの行事の時の個人写真や、感謝状誕生カードも飾ってある。仏壇・神棚を持ち込んで家の守りを祈っている人もいる	各居室の入口に、模様の違う暖簾を掛けて目印にすると共に、潤いを持たせている
84	<input type="checkbox"/> 換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめにしている	毎朝換気する。 エアコンとストーブで室温調節している 高齢の、寒がりの方が多いので、冬は温かく、夏は涼しすぎないようにしている	各利用者さんの居室で自由に温度調節が出来るようにしてある。 「温かくしてあげて」という管理者の採算を度外視した配慮はありがたくもあるが心配でもある

(2) 本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	<input type="checkbox"/> 身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している	避難路確保。手すりの設置、バリアフリー・家具配置の工夫がなされている。 居室にソファを置いてもらい、手作りの茶台を備えてもらった利用者さんもあり「部屋が変わったやろー」と満足げに話しソファにゆったり座ってテレビを見る。	管理者の実家が工務店であるため迅速な親身な点検・補修が随時行われ建物や備品の管理状態が良好である
86	<input type="checkbox"/> わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前の暖簾、小さなホワイトボードなど各利用者さんが分かる目じるしを置いている トイレの戸に大きく「お便所」と張り紙してあるなど、細かい配慮がなされている	
87	<input type="checkbox"/> 建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関のスペースに、ビニールシートの屋根を広げることが出来るようになってきている	ビニールの屋根を広げて、プール遊びしたり、ミニトマトを摘んだりしながらくつろいだりと大いに活用している

V サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に ○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼすべての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができています。	○	① ほぼすべての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入してください。)

「うらら」という名の通り全利用者がうらかな日常を送っていただけることを望んでいる。そのためには職員がほんわかとした顔で介護が出来る雰囲気を作り上げなければと心がけている。入所当時は「帰りたい」と言っていた利用者さんも今ではお正月でも「ここにいる。家へ帰っても気を使うだけや」と言うようになった。いつもは職員に当り散らしている人も「今日は家へ帰るのが嬉しいでしょう」といわれると「嬉しいけど……家ではじつとらんならん」と言うようになった。どの人も口腔ケア・陰洗をしっかりとやってもらって、ホカホカの部屋で過ごしている。食事も値段の割りに美味しい。誕生会は鯛やケーキでお祝いし利用者さん同士の仲の良さ、互いを思いやる気持ちも中々のものである